

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームかたらい 2階	評価実施年月日	平成21年6月1日～平成21年11月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホーム開設より3年が経過し、今年度は新しい理念を作成している。理念にはどのようなホームにしたいか、どのようなケアを目指しているか職員の要望や意見を聞き、取り入れている。理念に掲げた「心をつなぎ合い、支えあい、その人らしい生活を楽しめるよう支援していきます」に努めている。理念を常に目標とし、フロア会議などでケアの振り返りや見直しをする視点とし、理念に基づいたケアを目指している。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に基づいたケアを提供できるように、スタッフ間で話し合いの機会を持っている。日頃から意識できるようにホーム内に掲げ、実現に向けて努力している。また、申し送りや会議等でも理念について話し合いをする事で日常的に確認したり、ケアに活かせる様取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議の際に御家族に参加して頂いたり、新しい理念の説明を12月の家族会で行っている。理念実現に向けて今後どのように取り組んでいくかをお伝えしています。	○	新しい理念を理解していただくため、面会の際やお手紙・お電話で実現に向けた取り組みをお伝えし、ご家族の方々のお声も参考にして支援を行なっていく。また地域の方にも回覧板などを利用しお伝えしていく。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外出や散歩の際に気軽に挨拶をしたり声を掛け合える様に関係作りをしている。また平成21年10月町内会へ加入している。ホームを理解していただけるよう行事の際には回覧板や、ポスターなどでホームの取り組みをお伝えし、気軽に参加していただけるような機会を設け、地域の働きかけを行なっている。近隣の農家の方と日常的に交流を行い、作物を頂いたりしている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会への入会が出来、秋には町内会を通じて地域の防災訓練にも参加している。また、大きな行事の際には回覧板で地域の方にお知らせして、参加して頂ける様に取り組んでいる。また、市内のグループホームとの交流を図っている。	○	町内会に加入したことにより、今後はより一層積極的に働きかけを行なって行きたい。また、利用者様が町内会で行なわれる行事へ参加できるよう援助を行っていく。今後、実習も積極的に受け入れ、地域との交流を図っていく。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	どのような形で地域への貢献ができるか町内会とも話し合っている。また、来所や電話にて介護上でのご相談を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価の結果を踏まえた上で、できていなかった部分をどのような形とするのか、また、どのように取り組んでいくかを話し合い、改善向け体制作りを行っている。フロア会議でケアの質の向上に向けて話し合いを行っている。また、地域との交流も重要な課題として受け止め、町内会を通じて利用者様が地域に出て行く機会を多くし、地域の方にもより多くの行事に参加していただけるよう努めている。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、会議の中で出た意見を基にケアの質の向上・改善に向け、意見交換を行ったり、さまざまなお声をいただく重要な機会となっている。ご家族から頂いた意見を改めて話し合いの場で検討し、様々な方から助言を頂き、日常のケアに生かせるよう取り組んでいる。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事故が起きた際や、運営上助言をいただきたい時・相談したいことがある時などその都度伺っている。また、地域包括センターの職員にも行事などに参加していただき、助言等頂いたり、利用者様との関わりの中で気づいた点やQOLの向上に向け御相談をしている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する資料をファイルにまとめたり、フロアに「コンプライアンスルール」を掲示することでいつでも目が通せるようにしてある。法人内に権利擁護センター「ばあとなあ」に登録している職員が勤務しているので何かあればすぐに連絡できる体制となっている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「コンプライアンスルール」とフロアに掲示することでスタッフがいつでも目が通せるようになっており、虐待についての意識を高めている。また、日常のちょっとした会話でも起こり得る事を事例や、ケアの振り返りを行い、スタッフの意識を高めている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際に書面での説明を十分な時間をかけて行っている。利用者様の状況が変わったときは随時ご家族と話し合い、疑問点や不安な点を解消して頂けるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約書に苦情受付窓口を掲載している。また、入り口のインフォメーションボードに記載してお知らせしている。玄関には御意見箱を設置しており、投函された際は会議内で検討し、掲示板で公表している。苦情・ご意見に関しては、随時話し合いの場を設けている。利用者様の中には意思表示が困難な方もおり、思いを外に出すことができない場面も多くあるため、スタッフは日々のかかわりの中でその方の思いや、訴えたいことについて気づいてあげられるよう努め、その声を受け止めケアに反映させるような体制作りに取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に1回、生活状況を記載したお手紙を出したり、電話や面会時に利用者様の生活状況についてお話している。金銭については、お手紙と一緒にひと月毎の出納簿をご家族にお送りしている。また、ご家族が来所された際には出納簿に確認のサインを頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にや家族会などで御家族のご意見を頂いたり、ご意見箱や苦情受付窓口を設置している。また、入居時に渡している書類にも外部の苦情受付窓口を明記し、口頭でも説明している。ご意見があった場合は、会議等で検討しケアに活かしたり、運営推進会議でご意見の内容や検討した結果を報告している。	○	御家族より御助言を頂ける事もあるが、今後は更に話しやすい環境作り に心がけケアの質向上に向け今後も取り組んでいく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員用の御意見箱を設置している。投函された場合は業務改善委員会で検討し、ホーム会議で報告している。スタッフ個々に関しては必要時に個人面談を行い、意見や声を聞き対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	以前、1Fの利用者様の心身状態に合わせて勤務体制を変更したことがあり、2Fではその事例がまだないが、2Fでも利用者様の状況に合わせた勤務体制の変更ができるように準備は整っている。また、受診等で十分な職員が確保できない場合は1階のスタッフと協力し合っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ホーム内での異動や退職があり、職員の入れ替えがあったが、利用者様への影響を考え異動する職員・退職者と入職者の勤務が重なるようにし、申し送り・引継ぎを行っている。変わらないケアを提供できるような体制作りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	引き続き各グループホーム協議会(十勝、北海道、日本)に入会しており、研修への参加等積極的に行っている。法人内の研修にも参加する機会を作り、研修で学んだことをホームでのケアに反映できるよう努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	前年から引き続き各グループホーム協議会に入会しており、様々な研修への参加等行っている。予定していた市内のグループホームとの交換実習の実施回数は1度であったので、来年度は回数を増やし実施し更なるケアの向上に向け取り組んでいくを検討している。	○	研修先として、同法人内の介護老人保健施設も検討している。また、今後も交換実習を継続していく。また、情報交換の場も設け、スタッフ間で交流ができるように取り組んでいく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	希望の日に休みが取れるように勤務を調整したり、長期の休暇等でリフレッシュできるような環境作りに努めている。定期的に面談を行い、悩みや困っている事について話し合い、ストレスを軽減できるように努めている。今回法人内でのアンケートを実施し、今後の取り組みへの参考としていく。	○	利用者様の高齢化、健康状態や認知症の進行に伴い、職員の悩みが大きくなってきているため、今後も悩みごとなどを軽減できるようなかかわりに努めていく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員からの意見をもとにした新しい理念を作りを行なっている。また、かたらい独自の課業一覧を作成し、その課業に沿って個人目標をスタッフ全員に立ててもらい、目標達成に向けて助言・指導を行っている。ケアの振り返り・楽しさを感じてもらえるよう研修への参加の機会を増やしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に職員が御自宅を訪問し、御本人や御家族から生活状況や習慣、不安点などについてお話を伺う機会を作っている。また、その内容をスタッフ全員が把握し、ケアに活かせるよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談の時点からご家族の支援を念頭に置き、的確なアドバイスができるように十分な時間をかけて話を伺う機会を作っている。ホームを理解していただくために十分な説明を行い、不安なことや要望などを、御家族が伝えやすいような関係作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居の希望があった際には御本人・御家族と面談を行い、情報を収集しそれをもとに入居判定会議を行い、入居が可能であるか、必要としている支援は何か判断を行っている。状況に応じては法人内のサービスの説明させていただき、必要な対応ができるよう支援を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームを見学していただき、スタッフやホームの様子を知っていただけるような機会を設けている。ホームでも出来るだけご本人が住みやすいような環境を整える為に生活歴等の情報を収集し、ケアに活かせるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共有できる時間を大切にし、一人ひとりに沿ったケアの実践に努めている。常に利用者様の立場に立って考え、ケアを出来るよう心がけており、一方的な支援ではなく、支え合う環境作りに努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の生活を支えていく上で、御家族の協力が大切であることを職員から機会があるごとにお伝えし、協力をいただいている。また、御家族から御相談があった時も一緒に考え対応できるよう努めている。	○	些細なことでも、御家族が遠慮せずいつでも声をかけて頂けるような関係作りを今後も持っていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでのご本人とご家族との関係を大切にし、ホーム内でもよりいっそう良好な関係を築けるような支援を行っている。また、そのために、面会時や毎月のお便りでご本人の状態を伝えている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご家族の協力のもと、なじみの場所に出かけたり、ご友人に会えるように支援している。また、希望があった際はそこに訪問できるよう体制を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとり生活習慣や性格を考慮しながら、お互いに関わりが持てるよう働きかけている。散歩等の外出だけでなく、日常生活のなかで一緒に楽しく過ごせる空間づくりにも配慮し、交流を図っていただけるようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された利用者様については、面会に行ったり遊びに来ていただけるような声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用しながらご本人の希望・意向の把握に努めている。また、日々のかかわりの中で表情やしぐさを観察し、ご本人の思いや希望に気づけるよう努力している。困難な場合は、御本人の性格や趣向を考慮してさまざまな働きかけを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に御家族や御本人から情報を収集すると共に、御家族の協力を得て御自宅を訪問して生活環境やなじみの暮らし方を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	御家族に協力を頂いて利用者様の生活歴等の情報を収集し、その方らしい生活を支援するよう努めている。また、日々の心身状態について全員が情報を共有し、その日の状態に合わせた生活支援をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	見直しや必要時において、日々の生活で気づいたことやご家族・ご本人の希望、頂いた助言やアイデアを取り入れた介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の定期的な見直しを行うと共に、利用者様の変化に応じてその都度話し合っている。	○	更に生活状態と連動した計画ができるよう取り組んでいく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の行動や言動をケース記録に残している。他にも介護日誌や連絡事項を利用して情報を共有している。	○	ケース記録だけでなくパターンシートを活用し、利用者様についての気づきや収集した情報を分かりやすくし、日々のケアに活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医師の指示で看護師訪問による医療処置や、希望があった場合での受診・医療援助がすぐに行えている。法人内の病院は突発的な入退院にも柔軟に対応できており、ホームの意向も治療方針に取り入れていただいている。又、法人内の病院や介護老人保健施設・小規模多機能施設などと連携を図り支援を行えるような体制作りを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通して民生委員の方等に御助言を頂いている。行事の際は踊りや歌の有志の方に参加していただいている。町内会を通じて、地域の防災訓練にも参加している。	○	今後も交流の機会を確保していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議や家族会を通して色々なサービスの情報交換をご家族を交えて行っている。地域のサービスとして訪問理美容を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターのスタッフが参加して下さる事でケアの在り方や福祉関連についての情報提供を行っている。そのほかにもホームの行事や食事会にも参加していただいている。また、利用者様との関わりの中で気づいた点やQOLの向上に向け御相談をしている。	○	状況に応じ事例検討にて御助言を頂いていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との協力体制を整えている。また、新しく病院にかかる時には、利用者様や御家族の意向を取り入れている。通院時は家族・スタッフが付き添い、受診の内容についてその都度ご家族に説明している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	一人ひとりの状態に応じ診断・治療が受けられるよう、かかりつけ医と相談、アドバイス等をしていただいている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師がホームを訪問し日常的な健康管理を行い、ケアスタッフと情報交換し、情報を共有しあって支援している。また、24時間看護師との連絡体制が整っている為、夜間でも何かあれば相談できるようになっている。また、緊急時の対応などの指導も行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院後、ご本人の病状についてや退院に向けた援助ができるように医師・看護師との連絡を密にしている。入院中も安心して過ごせるよう、入院時には介護添書を使用して病院職員にケアについての情報提供を行っている。また、御家族への病状説明の際にスタッフも同行させていただき、退院後の生活支援について医師や看護師に相談している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に御家族・利用者様の意思・意向を確認している。身体状況の変化があった時にはホームで出来る事・出来ない事を伝えたくてご家族の意思を確認している。医師や看護師も含め、スタッフ全員で方針を共有し、これからの対応につなげている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した際は、ホームで出来る事・出来ない事を伝えたくてご家族の意思を確認し、医師や看護師の連携や方針も含めて話し合いを行っている。状況が変化した場合は医師や看護師を交えての話し合いの機会も作り、具体的な支援方法を検討している。	○	今後はホームで終末を迎えられるような体制作りを目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>現在まで居宅に移り住んだ事例はないが、老健に移り住んだ方に関しては、フェイスシートやセンター方式を活用した情報を提供した。今後も同様の場合に情報提供できるように体制を整えている。また、長期入院の際は介護添書を活用し、継続して欲しいケアを伝えている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>知り得た情報を他のご家族や外来者に話さないことは当然の義務であり、日常のケアでも声掛けなどの内容にも注意している。また、個人情報の保護に関してはケアの一環であることをスタッフは理解し、日々のケアの中でも十分な配慮を行っている。言葉使いや利用者への声かけなども十分な注意を払っており、職員間でも何か気づいたことがあれば情報の交換や話し合いを行っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>御家族からの情報で買い物好きな方に関しては毎日チラシを一緒に見る等、希望を引き出せるように援助している。自己決定が難しい利用者様についてはその方に合わせた説明を行い、なるべく意向に沿った援助を行っている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1日の生活の中で食事の時間や受診の時間等、大まかな時間設定があるが、できるだけ利用者様のペースで過ごせるよう努めている。</p>	○	<p>ご自分の希望を表現できない方も多いため、日ごろから利用者様の様子を観察し、もっと声に出来ない思いや希望を汲み取ったケアができるよう、その都度話し合いを行い、生活を支援していく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に、または個々にあわせて出張理美容を利用している。服が汚れた際にはすぐに更衣していただいている。更衣をする際には、御自分で服を選んでいただけるような支援を行い、その人らしい服装をしていただけるよう努めている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>山菜を取り入れたり、行事や誕生日に好きなものを提供している。また、ホームで栽培した野菜も使用し、食事中的話題としている。ホームで採れた野菜の下準備なども手伝っていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	御本人の好みを把握し、日常的に食事以外でも取り入れて提供したり、好きなものを選んでいただく等、楽しんでいただけるような支援を行っている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を利用し排泄パターンを把握し、声掛け・誘導で排泄できるように努めている。	○	今後も御本人のタイミングにも考慮した声掛けができるよう状態の把握と対応を行っていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	なるべく御本人の意向に沿った入浴を心がけている。また、身体状況を確認しながらゆっくりと入浴できるように御本人と相談しながら実施している。今後、安全安楽な入浴が楽しめるよう個浴型介護浴槽の導入を予定している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は日光を浴びる等、活動することで生活リズムを整えている。身体状況に応じて休息をとるように援助している。夜間眠れないときには職員と一緒に過ごしていただくなどの対応をとっている。	○	夜間安眠できない方については専用紙を使い、生活パターンや睡眠パターンを把握し、それに合わせたケアを行っていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	昔の職業を生かして畑仕事をしたり、雑巾を縫っていただいている。また、利用者様の性格に合わせ、お世話好きな方には散歩をかねてスタッフと一緒にゴミをだしに行ったり、困っている利用者様を見つけたときにはスタッフに声を掛けていただけるよう働きかけている。役割について利用者様への負担につながっていないか確認するよう心がけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことの大切さを御家族にも理解していただけるよう、説明を行い協力もいただいている。お支払いの際には御自身で御支払いが出来る方は、財布からお金の出し入れを行っていただいている。お金の所持が難しくなった利用者様に関しては、こちらでお預かりさせていただき、御希望が聞かれた時にすぐに確認していただけるような体制を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者様の自発的な希望による外出の機会が少なくなっているため、天気の良い日は積極的に外気浴に誘い、戸外に出かけられるように努めている。	○	特殊車両を用意した為、今以上に希望に合わせて遠出ができるようにしていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	山菜採りや昔なじみの場所など、希望があった時にはすぐに出かけられるようにしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があれば電話ができるよう支援している。また、年賀状などもやりとりできるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	おおまかな面会時間は決まっているが、希望があれば設定時間以外でも面会できるようにしている。どなたでも気軽にきて頂ける様、居心地のよい空間作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてのマニュアルを作成している。また、居間にコンプライアンスルールを掲示し、会議などの話し合いの中で再確認できる機会作りを行ない、日ごろから意識できるようにしている。安易に身体拘束をしないように、日々のケアの向上に向け会議の中で職員の意見を取り入れ実践している。	○	今後もフロア会議やミニカンファレンスを通して、今現在、行っているケアが拘束に該当しないか意見を交換していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は自由に出入りができるように施錠は行っていない。夜間は安全・防犯上20時から早出職員が出勤するまで施錠を行っている。	○	今後も更に身体拘束への理解を深められるよう随時話し合いの場を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフ同士が声を掛け合って常に誰が何処で過ごしているのか把握している。フロアには必ず一人のスタッフが待機している。夜間は様子や安全を確認する為に2時間おきの巡回もしくは必要に応じて訪室している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物やはさみなどは定数を定め、利用者様の手の届かないところに保管し管理を行っている。内服薬・常備薬に関しては鍵のかかるロッカーに保管し、あらたに保管が必要と思われる物については、その都度取り扱いについて話し合いを行い決めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各事故に対応できるマニュアルを作成し、スタッフに周知している。今年度からヒヤリハット報告書を導入することで利用者様の行動の再確認をしたり、安全に過ごしていただけるように取り組んでいる。事故発生時には速やかに報告書を作成し、各利用者様に合わせた対応策を検討している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時や事故に対応できるように看護師と24時間連絡が取れる体制を作っている。また、夜間の急変時に対応できるように夜間待機者を置いている。急変時に備え、AEDを設置したり、11月にスタッフ全員が普通救命講習を受講している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練を年2回実施し、避難方法や消化について消防から指導を受けている。法改正に基づき、スプリンクラーも設置する方向で現在進行している。町内会を通じて、地域の火災訓練に参加している。セコムに入会する事で、災害時の協力をしていただけるようにしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者様それぞれのリスクについて担当の職員が中心となり、状況によってその都度御家族への説明を行っている。医療的なことに関しては、医師・看護師、歩行等時のリスク等に関してはリハビリ職員にも協力していただき、直接話し合いの機会を持つなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>常に身体状況を確認し、体調の変化があった際は速やかに看護師に連絡し、指示を頂いている。また、申し送りや日誌を活用し、スタッフ間で情報を共有している。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>内服の目的や副作用を確認するために、処方箋のコピーをファイリングしている。また、変更があった場合は記録や連絡簿を活用してスタッフに周知している。飲ませ忘れや誤薬防止の対策を行っている。又、利用者様の心身状況の変化をみながら、医師・看護師の指導のもと、調整・検討する機会を作っている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>牛乳を飲んでいただいたり、腹部マッサージを行う等、自然排便を促しやすい方法を利用者様ごとに把握し、実施している。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>個々に合った声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。また、歯ブラシも個々に合ったものを用意している。口腔ケアが難しい利用者様については、歯科医の指導の下行っている。状況に応じ、口腔ケアが出来ない時はお茶を飲んでいただき、口腔の洗浄を行っている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>調理員が参考書をもとに献立を考え、必要に応じて栄養士のアドバイスを頂いている。水分量の確保のため個々の嗜好に合わせた飲み物を用意し、個別に水分量をチェックしている。また利用者様の状態に合わせて食事の形態を変えたり飲み物にとろみを付けたり、ゼリーを提供したりしている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>マニュアルに基づき毎日清掃を実施し、予防に努めている。ホームの出入りの際は利用者様・スタッフ・御家族の手洗いうがいを徹底している。また、インフルエンザが流行しやすくなる冬季間前にはホーム通信にてご家族に面会時の手洗いうがいを呼びかけている。御家族の同意の下、インフルエンザや肺炎球菌についての予防接種を行っている。また、感染予防の研修に参加し情報を報告している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や布巾は漂白・洗濯し、清潔を保つようにしている。食材については週3回配達をしていただき、新鮮なうちに使い切るようにしている。また、野菜直売所を利用し、より新鮮なものを購入している。台所に衛生管理マニュアルを掲示し、スタッフ全員で把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節に応じた花をプランターに飾っている。また、玄関に長いすを置いて休憩したり履物をはく際にかつようしている。玄関前にはスロープを設置しており、冬季間は玄関先・駐車場の除雪を徹底して行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂には花を飾ったり、写真を貼ったり、季節にあった飾りをつけをしている。スタッフ同士の会話の声の大きさやテレビの音をこまめに調整したり、天気に合わせてレースのカーテンをする等、不快な光や音がないように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2階事務所を共有スペースとして過ごせるように観葉植物、ソファを置き、自由にくつろいでいただけるような環境を作っている。一人で過ごせたり、利用者様同志でゆっくり過ごせるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なじみの家具や服などを持参していただくような働きかけを御家族に行っている。また、御家族の写真を貼ったりし、安心して過ごしていただけるようにしている。持ち物が壊れた場合は、御本人と一緒に買物に行き、気に入った物を購入できるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめに窓を開けて換気を行い、温度の調整を行っている。また、冬季間は加湿器を使用して湿度管理を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレに手すりを設置している。リハビリ課の指導の下、居室内も安全に移動できるように環境を整えている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個人に合わせて居室に目印をつけ、分かりやすいようにしている。内服忘れがないように空袋を確認することで、薬の自己管理が続けられるようにする等、今まで行っていた事を継続できるよう個人の能力に合わせて配慮している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑についてはベランダから利用者が鑑賞できる位置に作っている。また、窓から近隣の農家の畑を眺めることができ、住民との交流を図る場として活用している。庭には手作りの木のベンチを設置しており、そこでもゆったりと過ごしていただけるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ①昨年度から実施している公文学習療法を継続し、利用者様の持っている力や意欲を引き出し、できることへの喜び・満足感を感じていただけるような関わりに努めています。
- ③認知症の進行に伴い、できないことが増えていく利用者様に対して、不安が軽減し心配事がなく過ごせるような関係・環境作りに努めています。④法人内の病院や協力病院と連携をと
- り、急変時の対応・早期発見と治療などの体制作りを行っています。⑤利用者様個人個人に合わせたケアや支援に取り組んでいます。(趣向に合わせた外出の支援など)
- ⑥安全安楽な生活に向け設備を整えている(AED、個浴型介護浴槽)。